
DODO vol.38



2022.10~2023.10



「環境×里山」やまなび

活動理念 Philosophy

やまにまなび、やまをナビする

25期代の方針 Policy

「里山に関連する活動を増やす」「メンバー同士の交流を深める」の2点です。

活動概要 Overview

25期代では、活動頻度の増加と活動内容の多様化の観点から、メンバーのやりたいことに合った新たな活動拠点を模索してきました。また、やまなびの「真面目に楽しく活動する」という企画の色を大切にすため、森林整備などの活動以外でもメンバー同士の交流の機会を積極的に設け、メンバー間の交流を深めることを目指

しました。

26期代の展望 Future Outlook

今後の展望としては、やまなびで現在行っている活動は継続しつつも、新たな活動を模索していきます。新たな活動を始めていく上では、高尾の森自然学校の方々から色々な里山の活動を紹介して頂いているので、それらの活動に参加していこうと思います。

次に、現在のやまなびの活動は東京の西側に偏っているという意見があるので、2月に訪問する予定のある埼玉県の吉見町など、広範囲に渡って活動していきたいと考えています。

また、詳細は未定ですが、長柄町とは別に新たな合宿先も検討していきたいと思っています。

1

絵本の森を探検しよう！

#自然に親しむ #かるた

📅 2023年10月8日

📍 高尾の森自然学校

【背景】 普段森林整備の活動でお世話になっている高尾の森自然学校さんから当イベントの出展のお誘いをいただき、参加に至りました。

【目的】 イベント来場者や子供たちに自然に親しみ、森の豊かさを感じてもらう。また、これまで森林整備活動を行ってきたやまなびメンバーが、出展を通して自らの意見やアイデアを実現する機会を得る。

【内容】 このイベントでは未就学児～小学生の児童を対象に、高尾の森自然学校さんの敷地内で自然の中で楽しめる企画を実施しました。企画内容の検討から当日の企画運営までをやまなびメンバーで行いました。当日は「環境かるた」と「宝探し」の2企画を実施し、両企画で計100名以上の来場者にご参加いただきました。



参加者の声

26期：匿名さん

子どもたちが宝探しや作ったかるたを楽しんでくれた。盛り上がっていてこちらも楽しかった。

26期：匿名さん

企画から自分たちで考えて、創造力や計画力を身につけることにつながり、とても有意義な活動でした。当日、参加してくれた子どもたちが楽しんでくれた様子でとても嬉しかったです！



2

夏季長柄町訪問

#放置竹林 #地域活性化

📅 2023年8月3日～4日、14日～15日 📍 千葉県長柄町

〔背景〕 ふるさとネッツというNPO法人で理事を務め、ご自身でセルフビルドの活動をされている井上源太郎さんの活動の一環で、やまなびでは例年森林整備のお手伝いをしています。

〔目的〕 ただ森林整備を行うだけでなく、千葉県における放置竹林の問題や、長柄町における人口減少や、地域活性化について、メンバー自身が考えるきっかけにすること。やまなびがテーマとする里山の周りで活動することで、里山とはどのようなものかを学ぶこと。

〔内容〕 今年の夏季長柄町訪問では、住宅の周りの竹林整備や草刈り、セルフビルドによって建てられた家の水路の整備等を行いました。炎天下での作業でかなり大変でしたが、その分非常にやりがいのある活動でした。流しそうめんやスイカ割り、花火なども行いました。



参加者の声

27期：匿名さん

初めて長柄町の活動に参加させていただいて一番大切に思ったことは、楽しんで活動するということです。森林整備や竹林伐採はどちらも重労働ではありますが、切った竹で流しそうめんをしたり、森林の木材で家を建てられている源さん、ちはるさんが生き生きとした表情で活動されているのを見てそのように思いました。長柄町での活動に感銘を受けたので今後も継続的に参加していきたいです。

27期：匿名さん

足場の解体や竹山の整備などの貴重な体験ができて楽しかったです。

3

吉見町訪問

#地域活性化 #里山

📅 2023年9月11日 📍 埼玉県吉見町

〔背景〕 早稲田大学のOBで吉見町の地域プロジェクトマネージャーを務めておられる坂本明さんから、やまなびと吉見町で連携して何かできないかという旨のご連絡をいただき、メンバー数名で吉見町に伺う運びとなりました。

〔目的〕 吉見町の里山環境の現状を認識するとともに、地域としての魅力を発見すること。現地の方との交流や意見交換を通して、メンバーの視野を広げること。

〔内容〕 吉見町の里山や、観光名所である八丁湖や道の駅の散策、地域おこし協力隊の活動見学等を行いました。また、メンバーから見た吉見町の印象について、現地の方との意見交換を行いました。



参加者の声

27期：匿名さん

吉見町は自然と生活インフラが共存していて驚きました。また、すれ違う方が挨拶をしてくださって人の温かさをとても感じました。

27期：匿名さん

普段、都会に暮らしていても気付かない魅力がある町が、都心からそう遠くない位置にあるんだな～と感じました。これからもやまなびの活動を通して魅力のある吉見町に関わっていきたいです！



4

高尾の森でのボランティア活動

#低炭素社会 #生物多様性

📅 月1、2回程度 📍 高尾の森自然学校

〔背景〕一般財団法人セブン-イレブン記念財団と東京都との協同事業として高尾の森自然学校が行っている、森林の保護保全事業にボランティアとして携わっています。長柄町よりアクセスが良く、武蔵境よりも里山に近い環境であることから、25期代への代替わり後からこの活動を始めました。

〔目的〕八王子の貴重な森林を守り、低炭素社会の実現や生物多様性の保全を目指すこと。

〔内容〕高尾の森の活動では、主に「森のお手入れボランティア」と「畑クラブボランティア」の二つに参加しています。

森のお手入れボランティアでは竹林の整備や低木剪定などを行い、畑クラブボランティアでは自然学校敷地内の畑の草むしりや伝統野菜の栽培などを行っています。



参加者の声

26期：匿名さん

東京都とは思えないような素晴らしい自然に囲まれて畑仕事を経験出来てとても充実した活動でした。

5

独歩の森でのボランティア活動

#緑地整備 #武蔵野

📅 月1、2回程度 📍 境山野緑地

〔背景〕この活動は「武蔵野の森を育てる会」というボランティア団体を中心となって行っている活動です。代表の田中雅文さんは元々日本女子大学で教授を務めておられ、日本女子大学に在籍していたメンバーからの紹介でやまなびとしてこちらの活動に参加させていただくようになりました。

〔目的〕住宅街と隣接する緑地での活動を通し、身近な自然環境の保全を行うこと。メンバー同士だけでなく、他大学の学生団体や地域の方など、環境活動をされている外部の方々と交流すること。

〔内容〕年間を通して行う雑木林のゴミ拾いの他、竹の間引きや草刈り、低木剪定、どんぐりの種まきなど、季節によって異なる活動を行っています。緑地の整備にとどまらず、武蔵野の森を育てる会の方から独歩の森に分布する様々な植物のお話を伺うことができます。



参加者の声

27期：匿名さん

笹刈はやりがいがあったし、武蔵野の森を育てる会の方々の話は面白くてためになりました！





「環境×教育」 ecoSMILE

活動理念 Philosophy

環境教育を通して、持続可能な社会を形成する人物を育成する。

25期代の方針 Policy

「対面でもオンラインでも対応できるように準備に臨む」「高いクオリティのイベントを開催する」「新歓は積極的に行う」の3点です。

活動概要 Overview

25期代前半は、まだ合宿行事は行えず、オンラインで開催するイベントもありました。しかし、

25期代後半は、さまざまな規制も緩和され、合宿行事を行うことも可能となり、実際に2つの合宿行事を敢行することができました。総括すると、25期代は、コロナ禍からの切り替わりにあたる、重要な節目の代となりました。

26期代の展望 Future Outlook

26期代では、25期代まで続いてきたイベントを引き継ぐとともに、コロナ禍で中断してしまった出前授業を復活させていきたいと思っています。また、居心地の良い、子どもに好かれる環境作りを行っていきます！

1 夏鯖江ゆるりん2023

#環境教育 #めがねのまち

📅 2023年8月18日～21日 📍 福井県鯖江市

〔背景〕10年以上お世話になっている『ユールさばえ』さんと協力して毎年2回開催している恒例行事で、2023年の夏には数年振りに対面形式でイベントを開催しました。

〔目的〕鯖江市の小学生に環境のことを考えるきっかけを与える。

〔内容〕4日間の内容を簡潔に、それぞれ箇条書きで示します。

- ・ 1日目：メンバーが鯖江市に集合しました。鯖江市長の佐々木勝久さんにご挨拶にも伺いました。
- ・ 2日目：「絶滅」と「リサイクル」のテーマで、それぞれ90分程度の環境教育プログラムを実施しました。絶滅カードゲーム、リサイクルの紙工作、どちらも子どもたちに楽しんでもらうことができました。
- ・ 3日目：「外来種」と「実験」のテーマで、それぞれ90分程度の環境教育プログラムを実施しました。オリジナルの外来種すごろく、BTB溶液を用いた実験を行い、子どもたちが自ら進んで学ぶことができました。
- ・ 4日目：お世話になった方々に挨拶をして、鯖江市を後にしました。



参加者の声

25期：匿名さん

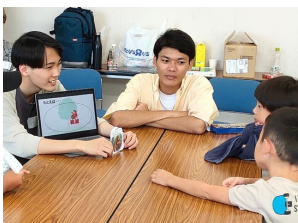
初めて鯖江の子どもと対面で触れ合えたのでとても楽しかったです！

26期：匿名さん

新鮮な環境で仲間たちと一緒に過ごすことで、貴重な思い出になりました！

27期：匿名さん

メンバーとも仲良くなれて子ども達の笑顔も見れて楽しかったです！



2

クマたちはどう生きるか

#動物園 #初演劇

2023年10月8日 横浜市立野毛山動物園

【背景】あるメンバーの希望から、動物園でイベントを実施するに至りました。

【目的】子どもたちにクマのことをより知ってもらう。

【内容】クマに関するパネル展示と、クマと人間の衝突の模様を描いた劇を披露しました。台本や小道具、背景も全てメンバー全員で協力して準備を行いました。動物園での開催や、劇形式のイベントなど、初挑戦のことも多く、難航する場面もありましたが、非常にやりがい満ちたイベントとなり、25期代を締めくくる良いイベントとなりました。



参加者の声

25期：匿名さん

動物園で劇を披露するという貴重な機会をいただけて嬉しかったです！

27期：匿名さん

劇という斬新な試みでしたが、子ども達が楽しそうに見てくれて楽しかったです！

3

こどもエコクラブ全国フェス2023

#こどもエコクラブ #SDGs

2023年3月26日 国立オリンピック記念青少年総合センター

【背景】『こどもエコクラブ』さんが毎年開催している総会で、ecoSMILEがスタッフ兼出展者として協力しているイベントです。

【目的】全国の小学生と交流し、本イベントの成功に貢献する。

【内容】クイズプログラムの出展と、当日のイベントスタッフとしてのお手伝いをしました。クイズプログラムでは、山・海・生き物・商品・環境など、幅広くテーマを設定しました。自分達の知識の増強にもなり、さらにいろいろなテーマを扱うことで、子どもたちの新たな分野への興味をもってもらうきっかけを与えることもできました。



参加者の声

25期：匿名さん

環境に興味がある子どもたちと交流することができ、自分としても勉強になりました。



4

新宿の日2023

#サッカー #ボッチャ



2023年4月9日



国立競技場

〔背景〕『クリアソン新宿』さんからブース出展のお誘いを受けて、出展に至りました。

〔目的〕環境に興味がない層にもアプローチをして、少しでも環境のことを知ってもらう。

〔内容〕手作りのボッチャを模したアクティビティができるブースを出展しました。環境に関するクイズの正解数が多いほどアクティビティで投げられる球数も増え、高得点が狙えるというルールを設定し、環境のことを少しでも知ってもらいながらも、大人も子どもも楽しめるブースとなりました。



参加者の声

26期：匿名さん

子どもたちが楽しみながら環境クイズやゲームをやってくれていて嬉しかったです！

5

こども霞が関見学デー

#環境省 #脱炭素



2023年8月2日～3日



環境省

〔背景〕『環境省環境教育推進室』さんと合同で企画を行うことになり、出展に至りました。

〔目的〕本イベントに来た子どもたちに、少しレベルの高い知識を付けてもらう。

〔内容〕環境省が制作した脱炭素教材を活用しながら、レベル別のオリジナル資料を3種類制作して、オリジナルの講座ブースを出展しました。多くの子どもたちと一緒に脱炭素についての知識を深めることができました。



参加者の声

26期：匿名さん

真剣に聞いてくれる子ばかりで驚きました。負けてられないです。

27期：匿名さん

子どもに1対1で環境問題を伝えられたことが印象的でした！

6

西早稲田こども天国

#外来種 #釣り



2022年11月27日



大隈通り

〔背景〕早稲田地域での子ども向けのイベントをより盛り上げるために出展に至りました。

〔目的〕子どもたちに楽しんでもらう。

〔内容〕数年振りに対面形式で開催された『西早稲田こども天国』で、外来種をテーマにした釣りゲームのブースを出展しました。ルールが単純で子どもたちにとってわかりやすく、楽しみやすいブースとなりました。26期代のスタートを飾る、良いイベントでした。



参加者の声

25期：匿名さん

子どもたちが楽しみながら外来種について学ぶ様子が印象的でした！

26期：匿名さん

数年振りの対面イベントでしたが、無事に成功して安心しました。

7

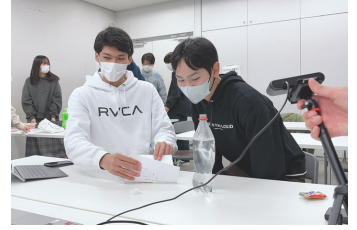
春鯖江2023

#オンライン講座

📅 2023年3月5日 📍 zoom

〔背景〕10年以上お世話になっている『ユーカーさばえ』さんと協力して毎年2回開催している恒例行事で、2023年の春はオンライン形式で開催しました。

〔目的〕鯖江市の小学生に環境のことを考えるきっかけを与える。
〔内容〕本イベントでは、「リサイクル」と「実験」の2つのテーマごとに90分程度の環境教育プログラムを実施しました。リサイクルでは紙工作を行い、ゴミの分別や、リサイクルに関して手を動かしながら学んでもらいました。実験では、着色したお湯と冷水を利用して前線を演示したり、竜巻の様子をペットボトルを利用して模式的に演示したり、複数の実験を行い、楽しみながらいろいろなテーマについて学んでもらいました。



参加者の声

25期：匿名さん

鯖江の子どもたちと交流を通してとても楽しく実りある時間を過ごすことができました！

8

第二幕 クリアソン新宿 ホーム開幕戦

📅 2023年3月12日 📍 味の素フィールド西が丘

〔背景〕『クリアソン新宿』さんとの初めてのコラボ企画としてブース出展を行うことになりました。

〔目的〕子どもたちに工作を楽しんでもらいながら、資源を大切に作る心を可能な範囲で伝える。

〔内容〕廃材となる牛乳パックを活用した、ブンブンごま制作体験のブースを出展しました。保護者の方からは懐かしいという声、子どもからは楽しいという声があがり、終始温かい雰囲気のイベントとなりました。



9

新宿エコライフまつり (ゼロカーボンシティ新宿フェス2023)

📅 2023年6月3日 📍 エコギャラリー新宿

〔背景〕様々なイベントが開催される『エコギャラリー新宿』からのお誘いを受けて出展に至りました。

〔目的〕展示物を作成し、来場者に早稲田地域の環境のことを学んでもらう。

〔内容〕戸山公園の生態系を調べるためにフィールドワークを行い、壁新聞にまとめて展示を行いました。文字やイラストからメンバーの個性が感じられる、素敵な作品になりました。





「環境×海」 うみさんぽ

活動理念 Philosophy

学生の立場から海洋環境問題に取り組むことで日々の環境意識を高める

25期代の方針 Policy

- ・ボランティア活動の活性化
- ・外部と積極的に連携
- ・SNSで積極的な発信

活動概要 Overview

昨年から対面活動を段階的に再開しましたが、ボランティア活動の機会が限られ、かつ25期代への引き継ぎにおいて参加者が著しく不足しているという課題に直面しました。この問題に対処すべく、今期の最大の目標としてボランティア活動の活発化を掲げ、活動人数の拡大に注力しました。具体的には、月に2~3回のボランティア活動を実施し、活動の活性化を図り、メンバーの意欲向上や交流促進を目指しました。

また、活動の活性化にあたって、外部と積極的な連携を図りました。他団体との協力を通じて、うみさんぽ単独では難しい活動を展開し、活動の幅を広げました。交流を通して、他団体との友好関係を築く良い機会となりました。

そして昨年に続き、SNSで積極的な発信に注力しました。メンバー数の減少に対処するために、若者が情報収集目的で活用しているSNSでの発信を通して、うみさんぽの活動をより多くの人に伝えることを目指しました。活動実績を投稿する際に、現場の様子や参加者の感想を伝え、活動のリアルなイメージを伝えるように心がけました。また、定期的な情報発信を保つために、環境問題に興味を持ちやすいクイズ形式のコンテンツを継続的に発信しました。



26期代の展望 Future Outlook

- ・夏休みなどを活用した遠方での活動
- ・活動内容の拡大、充実
- ・他団体との交流、つながりを深める

現在、うみさんぽには合宿などの活動がないため、遠方での活動を作りたいと考えています。漂流ゴミが多く流れ着く対馬や、サンゴの白化が進む沖縄などが候補地に上がっています。加えて、普段の活動の幅を広げていきたいと考えています。普段の活動で行っている海、川の清掃も継続しつつ、メンバーの意見を積極的に取り入れてそれぞれが企画を立ててチャレンジしやすい環境を作りたいです。また、ミズヒマワリの除去活動を行っていますが、特定条件付き外来生物の指定により、外来種駆除のハードルが下がったのでザリガニやアカミミガメの駆除にも目を向けたいと考えています。そして、江戸川クリーンを通して他の学生団体との交流がありますが、このつながりをさらに深めていきたいと考えています。江戸川クリーン以外にも新たにイベントを作ったり、お互いの活動に行き来する機会を増やしていきたいと考えています。

1

江戸川クリーン

#川 #外部連携

2023年 5月20日、6月17日、8月6日

千葉県市川市 江戸川沿い



[背景]

昨年から繋がりを持った学生団体「おりがみ」と共に立ち上げた定期的なゴミ拾い活動です。「おりがみ」とは昨年のビーチクリーンでコラボした以来活動の連携がなく、大切なつながりを保ちたいという双方の思いにより、本活動を企画しました。

活動の狙いとして、既に環境活動に取り組んでいる大学生はもちろん、環境活動に触れたことのない大学生をターゲットに、環境に対して関心を持つきっかけを提供するとともに、環境課題の解決を目指しています。また、関東近辺で環境活動を行っている団体とも連携し企画を作り上げていき、環境活動に取り組む人々の輪を広げていきたいと構想しています。実際、活動が定着した後、NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) と早稲田大学学生ボランティア企画集団NUTSの方にも加入して頂き、現在は4団体で活動の企画を行っています。

[目的]

- ①環境活動に参加するきっかけとなる場の提供
ただゴミ拾いを行うのではなく、「ゴミ拾い」と「ワクワク」を掛け合わせた革新的なゴミ拾いを企画し、参加のハードルを下げ、環境活動への参加を促す。
- ②ゴミが落ちている根本的原因の解決
ゴミを拾っている姿を河川敷の利用者に見せることで意識の変化を促し、ゴミが落ちている根本的な原因の解決を目指す。
- ③他団体や地域とのコミュニティやつながりの形成
他の環境団体やボランティア団体と連携し、共に企画・実施する。その中で、江戸川クリーンやその他の環境活動を共同で作りに上げていくコミュニティを形成する。
- ④環境活動の輪の拡大
ゴミ拾いをきっかけとして集まった様々な立場の大学生や地域の人々とのつながり、さらなる環境活動への参加を促す。

[内容]

月に1回、千葉県と東京都の境にある江戸川の河川沿いでゴミ拾いを実施しています。活動では、参加者を少人数グループに分け、団体同士で交流しながらゴミ拾いを行いました。他団体との絆を深める大変貴重な機会になりました。

また、現在はまだ企画が初動段階で、「ゴミ拾い」を中心に活動していますが、今後の構想として、「ゴミ拾い」と「ワクワク」を融合させた企画を検討しています。具体的なアイデアとして、「ゴミ拾い×運動会」や「ゴミ拾い×花火大会」が挙げられています。参加者がゴミ拾いを通して楽しさや新たな体験を得ることができるよう活動を提供していきたいと考えております。

参加者の声

26期：匿名さん
ちょっと早く起きて昼前までに終わるゴミ拾い。それは休日のいいスタートになりました。他団体との交流もできたのでいい機会をもらえたと思っています！

27期：匿名さん
ゴミ拾いはなんだかみんなと宝探しみたいと感じたので楽しかったです！



2

ミズヒマワリ除去活動

#外来種 #早起きな生活

2023年 5月6日、6月18日、7月30日

千葉県 香取市 長島新堀

[背景]

ゴミ拾い以外の社会貢献活動を増やしたいという思いの元、他団体が実施している活動への参加をいたしました。その中で、「東京釣り協会」が展開している本活動に着目し、連携の機会を見つけました。

背景として、千葉県香取市の川では、ミズヒマワリと呼ばれる特定外来生物が水面をマット状に覆っており、大規模な繁殖により魚類の成長を妨げ、生態系に悪影響を及ぼしています。また、この問題は生態系だけでなく、水路の水流阻害などによって地域の住民の生活にも悪影響を与えています。この中で、東京釣り協会と協力して除去活動を始めました。

[目的]

①地域の環境問題解決

ミズヒマワリ除去活動を通じて、生態系の保全や地域の環境問題の解決を目指す。

②外来種問題についての関心の向上と理解の深化
協会や地元の方との交流を通して、外来種に関する知識を増やし、現状についてより詳しく理解することを目指す。同時に、外来種問題への関心を高め、将来的に新たな活動への足掛かりとなることを期待する。

[内容]

アメリカンレーキなどの農具を用いて、水面に繁茂したミズヒマワリを岸に引き上げ、乾燥させる作業を行いました。根が強固に絡まっており、引き上げる作業は非常に体力を要するものでした。

また、水草に流れてきたゴミが溜まりやすく、除去作業の一環としてゴミ拾いも行いました。水辺では、カエルや蜘蛛などの多様な生き物を発見することができ、作業の合間に心身をリフレッシュする有意義なひと時となりました。

作業中に地元の方から声をかけて頂き、感謝の言葉を頂きました。また、差し入れとしてアイス頂き、真夏の暑さの中での作業による疲労感を一掃しました。自分達の活動で地元の方が抱えている問題の改善に繋がることを実感でき、やりがいを感じたメンバーが多かったです。

7月は酷暑で、熱中症予防のためミズヒマワリの除去ではなく、川に生息する外来魚（ブルーギル、ブラックバスなど）の駆除を行いました。釣れた外来魚は川岸で穴を掘り、埋める処理をしました。外来生物の処理方法に関する意見は賛否両論ですが、活動を通して改めて考え直す貴重な機会となりました。

ミズヒマワリは生長速度が速く、繁殖能力が強いため、長期にわたる除去活動が必要です。今後も継続的に除去活動を展開し、地域の外来種問題の徹底的な解決を目指します。



参加者の声

26期：匿名さん

作業中は正直参加したことを後悔しかけてましたが、感謝の言葉を伝えられた瞬間にやってよかったと思えました！

27期：匿名さん



ミズヒマワリは根が強く張っていて引き抜くのが大変でしたが、その分終わった後のご飯がおいしかったです！



3

ゴミ拾い

#ビーチクリーン #小さなことからコツコツと

  2023年 4月22日 東京都江戸川区 荒川の川沿い
2月28日、4月8日 東京都江戸川区 葛西臨海公園の砂浜
6月10日 神奈川県鎌倉市 由比ヶ浜

[背景]

昨年のゴミ拾い活動に続き、活動場所を複数増やし、活動範囲を広げました。ゴミ拾いは手軽に参加でき、ハードルが低いため、うみさんぽのみならず、ロドリゲス全体で参加者を募集しました。活動を通じて、メンバー同士の交流が促進され、絆を深めることができました。また、特に新歓の時期には回数を増やし、多くの見学者に参加していただきました。



[目的]

①東京周辺の水辺環境の改善

地域の川やビーチでのゴミ拾いを通じて、水辺環境の美化を促進する。

②各場所でゴミ拾いを通して、地域の特徴を学ぶ

異なる場所での活動を通じて、地域ごとの環境特性や課題を理解し、より効果的な取り組みを進めることを期待する。

③周りの人の意識向上

ゴミ拾いの姿を周囲の方に見せることで、環境意識の高まりを促す。

[内容]

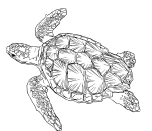
東京周辺の川やビーチで定期的にゴミ拾いを行いました。活動場所はメンバー全員で協議し、住んでいる場所に関係なく活動に参加できるように、複数の場所で活動することを心掛けました。

川と砂浜の両方でのゴミ拾いを通して、ゴミの量や種類の違いについて知ることができました。また、活動中に周囲の方から感謝の言葉をいただいたり、ゴミ拾いに協力して頂いたりしました。環境意識の向上に寄与できたことを実感し、大変有意義でした。

参加者の声

26期：匿名さん
川岸に生えている草の中にゴミがあり、拾いづらかったです。また多くのプラゴミを回収することが出来ました！

27期：匿名さん
ゴミが沢山落ちていて悲しくなりましたが、ゴミ拾いで環境改善に少しでも貢献できて良かったです！





「環境 × 地域活性」 REC

活動理念 Philosophy

RECという名前は「Rediscovery」「Experience」「Communication」の頭文字から来ています。

絶滅危惧種のトキや、ジオパークとして有名な佐渡島の環境の素晴らしさの再発見を、佐渡旅やボランティア活動を通して行っていくことを活動理念としています。

25期代の方針 Policy

コロナ禍に入った後は、佐渡島との繋がりを絶やさないように勉強会を実施するなどしてまいりました。移動制限撤廃後は、佐渡旅復活に向けて佐渡島の人々と濃い関係を築いていきました。

佐渡島での活動を通して、佐渡島の自然環境を直接体験し、人々とコミュニケーションをし、佐渡島の魅力を再確認することができました。

この方針で活動してきて、RECメンバー内での佐渡に対する愛や方向性は統一することが出来たと考えております。反省としては、大半の活動をREC内のスケールにとどめたために、外部への発信を十分に行うことができなかった点が挙げられます。

これに加えて、新潟は冬は豪雪地帯となるため、冬は佐渡島へ直接行くことが難しくなります。この期間の活動内容が固まり切っていない点も反省点として挙げられます。

活動概要 Overview

外部向けに「佐渡旅」を企画し、直接佐渡島に足を運んでもらうことで、佐渡島の自然を体験してもらいます。そして佐渡の人々と直接コミュニケーションを取ることで佐渡の環境についての理解を深め、再発見し、地域活性について考える機会を提供します。

26期代の展望 Future Outlook

今後の展望としては、夏休み中の外部向けの佐渡旅の実施に向けて、春から計画づくりに着手したいと考えております。それに際して、REC新メンバーと佐渡旅参加者に向けて、佐渡島について学ぶ機会をさらに確保していく予定です。

また冬の期間の活動についても、オンラインで佐渡島の人々と交流の機会を設けるなど、佐渡島と繋がりを保ち地域活性について考える機会を確保していこうと考えております。

現在は、以下に書きましたように、メンバーが少ないので、新歓を積極的に行いコンスタントに対面で活動することで、メンバーの数を増やすことも目標としています。



1

棚田の整備

#佐渡旅 #昇竜棚田



2022年8月12日



新潟県 佐渡市 岩首地区

[背景]

コロナ禍以前から「佐渡旅」を企画・運営してきました。コロナ禍では、佐渡島との繋がりを絶やさないように勉強会を実施するなどしていました。

移動制限撤廃後は、佐渡旅復活に向けて佐渡島の人々と濃い関係を築くことを目的として、RECメンバーを中心に春夏シーズンに直接佐渡島へ下見を行ってきました。

[目的]

外部向けに「佐渡旅」を企画し、直接佐渡島に足を運んでもらうことで、佐渡島の自然を体験してもらうことです。そして、佐渡島の人々と直接コミュニケーションを取ることで佐渡の環境についての理解を深め、再発見し、地域活性について考える機会を提供します。

[内容]

佐渡島岩首地区の棚田の整備のお手伝いをしてきました。

佐渡島の自然環境を直接体験し、人々とコミュニケーションを通して、佐渡島の魅力を再確認することができました。



📖 佐渡島 (佐渡市) 岩首地区

佐渡島は、トキの野生復帰に向けた活動で有名です。これは、トキがもともと稲作とともに繁殖した日本の農業を象徴する鳥であるため、当企画のロゴのモチーフとなっています。また、佐渡島は、自然と共生する農業を模索し、2011年に「世界農業遺産 (GIAHS)」に認定されました。

今回の活動場所である、岩首地区の棚田は、標高350mを超えるの急な山肌にあり、その風景が、竜が昇る姿に似ていることから「昇竜棚田」とも呼ばれます。さらに、佐渡海峡から昇る朝日が水を張っている棚田を照らす光景は、神秘的だそうです。



参考: <https://www.visitsado.com/spot/detail0150/>
<https://tanada-navi.com/introduce/iwakubi/>



2

アース・セレブレーション

#佐渡旅 # EC2023



2023年8月19日



新潟県 佐渡市

[背景]

「佐渡旅」を企画・運営する中で、佐渡市で行われている国際芸術祭（アース・セレブレーション：EC）に興味を持ったことです。

[目的]

佐渡の人々と直接コミュニケーションを取ることで佐渡の環境についての理解を深め、再発見し、地域活性について考える機会を提供します。

[内容]

佐渡市で開催された国際芸術祭に参加しました。そこで出店していた土染め体験をしました。



アース・セレブレーション (Earth Celebration2023)

今年で36年目を迎える、国内でも歴史ある佐渡での野外フェスティバルです。太鼓芸能集団「鼓童」が、国内外で出会ったアーティストや文化人を佐渡に招き、豊かな自然の中で多様な文化を交錯させ、新しい地球文化を創造しようと、1988年から佐渡市とともに開催しています。

佐渡の自然を舞台に、世界の音楽・人間交流を通じて、地球共同体のきずなを強める試みと地球文化を築き上げる中で、人間が人間として生きられる世の中に、一歩でも近づきたいという思いが込められているそうです。

🔍 Check

来年の開催は8/16（金）～18（日）です。
ご興味のある方はぜひ参加してみてください。



参考: <https://www.earthcelebration.jp> (EC 2023 HP)





「環境×商品開発」 Re-Cover

活動理念 Philosophy

資源循環型社会の実現を目指して、再生素材の普及に努める。特に、廃材を利用した商品を開発・販売し、多くの方に知ってもらい、新たな価値を創る。

25期代の方針 Policy

- (1) 新たな商品の開発
- (2) 環境問題や商品開発について学ぶ機会を増やす
- (3) 対面での活動のさらなる増加

25期代開始時に、メンバーから希望の多かった上記の三つの方針を立てました。

活動概要 Overview

(1) 【達成】 レジンアクセサリーに用いる魚の鱗が不足しそうであったので、細断したペットボトルキャップで代用しました。さらに、見た目や形などが異なり鱗と競合しなかったため、鱗の在庫を補充したあとも使用することとなりました。

【反省】 UVレジンを用いた新たな商品の開発として、コースターの製作を試みましたが、しかし、平らにならないなどの理由から断念しました。

(2) 【達成】 2022年度後期は、毎回のミーティング時に、インターネット上で環境問題の解決を目指した商品開発を行う団体などについて調べて共有する時間を設け、商品開発の参考にしました。

【反省】 工場見学などの外部の団体の協力を必要とする勉強会は行えませんでした。原因として、人手不足で具体的な計画がまとまらなかったことや、渉外のノウハウが不足していたことなどが考えられます。

(3) 【達成】 ほぼすべてのミーティングを対面で行いました。その結果、商品の作成のみならず

話し合いなども円滑にすすみ、メンバー同士の交流も活性化しました。また、外部の対面イベントにも積極的に参加し、総合してRe-Coverの活動がより活気を得たように思います。



【反省】 活動の軸を模索していた期間や人手不足であった期間は、対面でミーティングを行っていたものの少し活気が足りなかったように感じました。活動の軸を絶やさないことや、目標を明確化して共有することで参加者を集めることなどが、重要であると思いました。

その他、25期代開始時には当時保有していたコネクションを活かす予定でした。しかし、人手不足や渉外のノウハウの不足などにより、以前からRe-Coverと直接コネクションのあった団体と連絡をとることは基本的にありませんでした。代わりに、新たにRe-Coverとしてコネクションを得たイベントへの参加や、2023年度理工展出展の準備を、活動の軸としました。また、より多くの方が活動に参加できるよう、メンバーの予定に合わせて柔軟なミーティング日程を組むことを目標とし、2022年度後期は日程調整を行い不定期にミーティングを開催していましたが、2023年度前期は参加者が増えたことで定期開催となりました。企画長が不在の際も、メンバー一人一人が積極的に提案できてとてもよかったです。



26期代の展望 Future Outlook

(1)活動理念の補足

資源循環型社会の実現を目指して再生素材の普及に努める手段として、

- ①資源循環型社会や再生素材についてより多くの人に理解してもらい、再生素材の利用を促す(広報、商品販売時の説明、工作教室など)
- ②従来の素材を再生素材で代替することで、資源循環型社会や再生素材について理解していない人でも結果的に再生素材を利用するような状況をつくる(広報、再生素材を使用していること以外の付加価値をつくる、企業に持ち込むなど)が挙げられます。

また、別の方法で分類すると、

- ①'再生素材を用いた商品を自ら開発・製造・販売する
 - ②'再生素材を利用するためのノウハウを開発・伝授する
- などとなると推測されます。

(2)活動の目標

今後の活動の目標を、26・27期と一部の25期にアンケートをとって調査しました。その結果は、概ね以下のように分類されます。

①総合

- ・商品に使用する素材のうち、再生素材の割合を多くする
- ・出展の場を増やし、活動の軸にする
- ・使う廃材や取り組む商品の種類を増やす
- ・活動の規模を広げる
- ・共同の目標を達成しつつ各メンバーの目標も達成する
- ・廃材利用の先駆者になる

②広報

- ・SNSなどで積極的に商品の宣伝をする
- ・環境に配慮していることをアピールする
- ・商品が誕生した経緯を説明する

③教育

- ・教育や商品を通してリサイクルや循環型経済についての知識を伝える
- ・SNSやイベントを通してゴミを再利用する方法を伝える

④付加価値

- ・日常生活で使うものを作る
- ・Re-Cover以外の人でも行えるものづくりを普及させる

(3)軸となる活動

①広報

- ・ソーシャルメディアなどでの広報
- ・その他の広報

②渉外

- ・協力してくれる団体を新たに探す

③予定されている事業

- ・魚の鱗やプラスチックを用いたレジンアクセサリ製作
- ・廃木材を用いた箸置き製作
- ・新商品の開発
- ・通信販売
- ・再生素材を用いたものづくりのノウハウを公開
- ・新商品アイデアコンテスト
- ・理工展出展
- ・早稲田祭出展準備
- ・東北訪問
- ・リサイクル千歳台出展
- ・しんじゅくこどもまつり出展
- ・出張授業
- ・ソーシャルメディアなどで資源循環型社会や再生素材の知識を伝える

④その他

- ・勉強会
- ・新歓



1

しんじゅくこどもまつり出展

#クリアソン新宿 #全部ひらがな

📅 2023年8月5日 📍 新宿中央公園多目的運動広場

[背景] クリアソンが主催するしんじゅくこどもまつりに出展した。

[目的] 工作教室を通して再生素材を用いる方法を伝える。



[内容] テントを設営し、レジラクセサリーの製作教室を開きました。好きな型にレジンを液を入れてもらった後、着色した鱗や細断したペットボトルキャップなどをピンセットで型に入れてもらい、UVを照射して固めました。3時間程度の開催で参加者は38人程度でした。



📝 参加者の声

25期：匿名さん

参加費用を一律で一回100円としましたが、型の大きさによっては材料費を回収できない可能性があります。また、スペースの確保や道具を小分けにするなど、回転率を上げるための工夫も必要であると感じました。

2 多摩美術大学との コラボ

#美大生 #NHK

📅 2023年8月

[背景] 多摩美術大学の学生とのコラボ。

[目的] 廃材を使ったアート作品を作る。

[内容] 多摩美術大学の学生に魚の鱗とカスタネットのくり抜きを使ってもらい、Re-Coverのモットーに沿ったアート作品を作ってもらいました。これらの作品は大隈通り商店街の展示会で展示され、NHK首都圏ニュースにも取り上げられました！



3 江戸川クリーン

#ゴミ拾い #廃材入手

📅 不定期 📍 江戸川

[背景] 学生団体おりがみや環境ロドリゲスの他企画のメンバーが毎月第3土曜日に行っている江戸川クリーンに、Re-Coverとして参加した。

[目的] ゴミ拾いで回収した廃材を商品開発に利用する。

[内容] 江戸川の近くで、学生団体おりがみと交流しながらゴミ拾いを行いました。そして、再利用が可能なもの(タイルの破片など)を持ち帰ってコースター作りなどに活用しました。



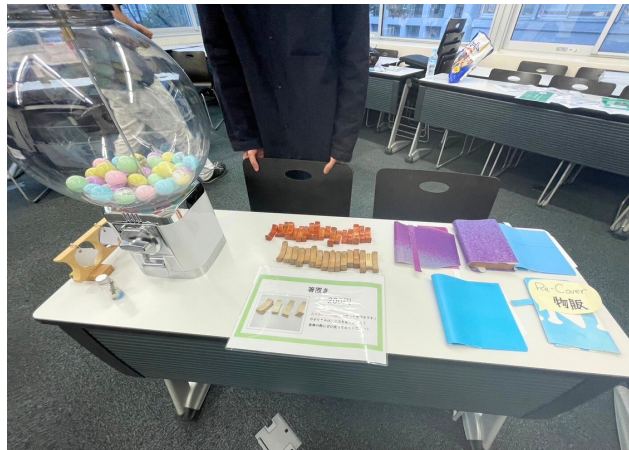
4

2023年度理工展出展の準備

#早稲田祭理工キャンパスver. #「りかばる。」

毎週（定期ミーティング） 学生会館

[背景] 11月に行われる理工展に出展し、物販や工作教室を行う。



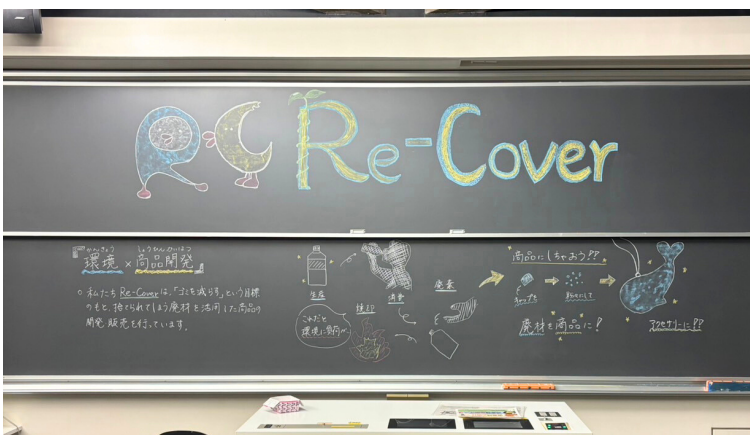
[目的] 理工展出展に向けて商品を新しく企画・創作する。

[内容] ペットボトルキャップやお菓子の包装紙、魚の鱗、カスターネットのくり抜きとレジンを用いて、ヘアアクセサリ、コースター、箸置きなどを作りました。アルファベットの形や様々なモチーフの型を買ったり、ペットボトルキャップやお菓子の包装紙を色別に分けて新しいデザインを作る工夫をしたりすることで、個性のある一点ものの作品を作ることができました。



参加者の声

25期：匿名さん
新しい型を使って試行錯誤したため、創造性を活かすことができ良い気分転換となりました。





「環境×早稲田」 えこのわぐま

活動理念 Philosophy

「環境×早稲田」をテーマに、早稲田大学やその地域のイベントで、他の様々な団体の方々と協力しながら、環境に関する活動を行い、そのイベントを支える。

25期代の方針 Policy

- ・参加するイベントの数を増やす
- ・新歓遠足を復活させる

活動概要 Overview

・今年度は、稲門祭実行委員会議への出席や稲門祭当日の懇親会への参加を通して、例年より活発にイベントに参加することを目指した。

・二つ目の目標であった新歓遠足についてはメンバーの都合もあり今年度は実施が叶わなかったが、来年以降の開催に期待したい。

26期代の展望 Future Outlook

早稲田祭や稲門祭でのゴミ分別指導を引き続き行うことや、早稲田や高田馬場駅周辺のゴミ拾いをするなどを通してゴミ問題に貢献しつつ、楽しみながら活動する。

1

新歓ビラ拾い

#新歓 #校内美化

2023年4月1日～4月4日 早稲田大学

〔背景〕毎年入学式の後に行われるサークルのチラシ配りの際には床にビラが散乱する。それを掃除するために毎年ロドリゲスが大学から依頼を受けていることが背景です。

〔目的〕キャンパス内の美化

〔内容〕コロナ前と同じようにサークルのキャンパス内での本格的なチラシ配りが許可されました。そのときに地面に散らばるチラシを拾いました。それと同時に環境ロドリゲスのビラ配りを行い、自分たちの宣伝も実施しました。



参加者の声

26期：匿名さん

他のサークルのチラシを資源ゴミとして回収することで新入生の目にはとまったと思う。



活動の様子



2

稲門祭

#早稲田大学

📅 2023年11月4日・11月5日 📍 早稲田大学

〔目的〕 稲門祭の来場者へのゴミ分別指導を行い、早稲田の環境意識をOB・OGの方にアピールする。また、環境ロドリゲスを稲門会の方々に知っていただく。

〔内容〕 稲門祭の前日準備では、学校中のゴミ箱を封鎖し、分別の目が届くエコステーションのみにゴミ箱を限定させました。稲門祭当日には早稲田祭運営スタッフと協力して、エコステーションでのゴミ分別指導を実施しました。各企画から人を集めたため、初めて知り合うメンバーがいることも珍しくなかったです。祝賀会では、稲門祭実行委員の方々の前で環境ロドリゲスについての紹介を行いました。



参加者の声

26期：匿名さん
世代の異なる稲門会の方々と一緒に活動できたのは新鮮だった。



新歓期の環境美化に
貢献しています！





「環境×キャリア」えこねくすと

活動理念 Philosophy

環境系のキャリアを志望する学生に向けて、環境に携わるキャリアを歩んでいる方の取材やリサーチを通して、環境にまつわる有益な情報を発信する。

25期代の方針 Policy

準企画から企画に成るための基盤を築く。

活動概要 Overview

将来、自分達も環境問題の解決に貢献できるような存在になりたいからこそ、環境分野で活躍している方々と直接お話をしてみたい。そんな想いを持つ、環境課題に対する関心が高いメンバーがいたからこそ始まった企画です。反省点としてSNSの活動が中心の企画のため、積極的なSNS更新が必須のところ、メンバーに対する参加強制力の欠如によって投稿が滞る時期があった部分です。

結果的には、29個ものインスタグラムの投稿だけでなく、記事を二つも公開することができ、25期や26期のおかげで当初の目標を達成することができました。数人で話していただけたアイデアが、準企画として形になり、人数も徐々に増え、今では26期が主導となり、27期とともに企画を発展させていってくれていることに心から感謝しています。

26期代の展望 Future Outlook

今までのオンライン上でのInstagramの投稿や取材記事の発信に加え、これらの発信に興味を持ってくださった読者やロドリゲスのメンバー向けに、オフラインで企業の方や今まで取材に答えてくださった方をお招きしてキャリアイベントなどを開催し、より具体的な『キャリア』を読者やロドリゲスのメンバーが考えるきっかけを提供したいと考えています。

1 大河内教授への取材 & 記事掲載

#初取材 #環境ロドリゲスの会長

📅 2023年6月9日 📍 早稲田大学 西早稲田キャンパス

〔背景〕 えこねくすとの記念すべき最初の記事として、環境ロドリゲスの会長を務める、大河内先生に取材しました。創造理工学部環境資源工学科の教授でもあることから、環境資源工学科に所属するメンバーに取材に行ってもらいました。

〔目的〕 将来環境に携わるキャリアを歩みたい学生に向けて公開する記事の作成にあたり、取材を行う。

〔内容〕 取材班と記事作成班を集め、アポイントメントから実際の取材、そして記事を掲載することまで行いました。学問を極める「教授」というキャリアを通して環境課題に取り組む大河内先生のお話を聞き、学生に向けた有用なアドバイスもうかがうことができました。



今回の活動に参加したメンバーは「教授」として環境に関わるキャリアについての理解を深めるだけでなく、取材の方法や記事作成について学ぶことができました。学術的な面から環境課題に取り組む大河内先生のお話は、大学院に進むこともキャリアの視野にしている学生にとって貴重な情報となったのではないのでしょうか。



Vol.1 環境志向の道歩んで:環境資源工学科の教授が語るキャリアの選択と意義

♡ 6

えこねくすと@早大環境ロドリゲス
2023年9月25日 12:05

「環境化学の研究者ってどんな人生を歩んでいるんだろう?」という疑問にお答えするべく、今回は早稲田大学創造理工学部にて、マイクロプラスチックについて研究をされている大河内博教授のインタビューをお届けします。

〈プロフィール〉

大河内 博 (おおこうち ひろし)

早稲田大学理工学術院 創造理工学部環境資源工学科教授。水や物質循環の視点から環境化学研究を展開。2017年に環境化学学術賞、2018年には大気環境学会学術賞(齋藤潔賞)を受賞。現在は早稲田大学公認のボランティアサークル、環境ロドリゲスの会長も務める。

参加者の声

26期: 匿名さん

学生という立場からはなかなか想像のつかない、「教授」というキャリアに触れることができとても有意義な取材でした。特に、学生時代にいろいろな経験をしていただいた方がいいといったアドバイスを聞いて、学生という自由さを活かして新しいことにチャレンジしたいと思います。大河内先生の研究者としての心持ちや、いただいたアドバイスをもとに、今後の学生生活をより充実させていきたいと思っています。

2

株式会社アスソラ取材&記事掲載

#環境三四郎 #起業家



2023年7月3日



zoom

【背景】株式会社アスソラの代表取締役の山崎智広さんは学生時代、環境ロドリゲスと交流があった環境三四郎に所属していました。また、環境ロドリゲスにも株式会社アスソラにインターンとして活動しているメンバーがいたので取材を依頼しました。

【目的】大河内先生の記事に続く、第二弾の「環境×キャリア」をテーマとした取材企画。

【内容】山崎さんに取材の交渉を行い、快く承諾してくださりました。4人のメンバーで取材をオンライン上で行い、記事を作成してNoteに掲載しました。今回は「起業家」として環境に携わるキャリアについて貴重な学びを得ることができました。



Vol.2 人生は一度きり:日銀出身の起業家が語るキャリア選択

♡ 9

えこねくすと@早大環境ロドリゲス
2023年9月3日 23:55

「組織の方針に沿って仕事をするのではなく、自分のしたいことに挑戦したい」と思う人は多いのではないのでしょうか。起業に関する皆さんの疑問に答えるべく、この記事では実際にご自身で会社を設立された株式会社アスソラの代表取締役である山崎智広さんへのインタビューをお届けします。



参加者の声

25期: 匿名さん

多様な経験を得て起業家として環境課題に取り組まれている山崎さんのお話はとても興味深かったです。また、取材交渉から記事作成まで携われて、一学生として成長に繋がる経験だと感じました。



3

ふくしまコットンプロジェクト取材

#NPO法人 #オーガニックコットン #記事は近日公開

📅 2023年10月23日 📍 zoom

[背景] 今年度の早稲田祭で規格外野菜を使用すると決まった際にご知見いただいた長谷川様からご紹介いただき、取材をさせていただくことになりました。

[目的] アスソラ山崎様の記事に続く、第三弾の「環境×キャリア」をテーマとした取材企画。

[内容] 福島県いわき市で2012年春に立ち上がった「NPO法人ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の代表である吉田恵美子さんに、オンライン上で取材を行いました。循環型社会を目指す「いわきおてんとSUN」の一プロジェクトであり、日本の在来種である「和綿」の有機栽培を通じて、震災以降の福島に活気と仕事を生み出すことを目的として活動しています。本取材を通じて、NPO法人として環境への取り組みや地域活性に携わる方の考え方を学ぶことができました。



参加者の声

26期：匿名さん

東日本大震災や原子力発電所事故によっていわき市内の農業に大きな被害が出て耕作放棄地が増えていく様子を見て何かアクションを起こそうと模索し、実際に行動を起こしたという行動力がすごいと思いました。私も吉田様のように解決したい課題に対して的を得られるような活動を行えるような人になりたいです。

4

Instagramの発信

#ミーティングで作成中

📅 隔週水・金曜日 📍 学生会館



06 | 全体活動報告

春

3/22 企画間交流会（戸山公園ゴミ拾い）



幹事以外のメンバーで企画間交流会を計画しました。他企画のメンバーと仲を深められるだけでなく、近隣の方々にも喜んでもらうことができ、充実した交流会となりました。

4/1～4/4 新歓



多くの新入生が環境ロドリゲスに加入しました！

4/30 企画間交流会 （野毛山動物園）



ecoSMILEで野毛山動物園でイベントを開催するための下見も兼ねて、企画間交流会として野毛山動物園に行きました。

5/20 企画間交流会 （新歓BBQ）



現役・新入生含めたくさんのメンバーが参加してくれてとても盛り上がりました。お肉が美味しかったです！

5/29 第1回ロドゼミ



5/14・5/26 WAVOCボランティアプレゼンコンテスト2023



『自分たちは、どう社会に貢献し何を学んだか』というテーマのもと、プレゼンを行いました。長期間にわたって入念な準備を行い、見事に観客賞を受賞することができました！



6/3・6/4 新歓合宿



コロナウイルスによる規制が緩和され、数年ぶりに新歓合宿が開催されました。観光やバーベキューなどのアクティビティを通して、新入生やメンバーと仲を深めることができました。とても思い出に残る楽しい合宿となりました！

6/9 ICCフィリピン交流会



フィリピンから来た高校生・フィリピン出身の早稲田生・環境ロドリゲスで交流会を行いました。活動紹介のプレゼンと、グループディスカッションを英語で行いました。フィリピンの高校生たちの熱気もあり、楽しい交流会になりました！

6/11 環境キャリア座談会



OB・OGの方々から環境系キャリアのお話を伺いました。



6/24 ふるさとまつり



戸塚第一小学校でのイベントで、釣りゲームのブース出展を行いました。子どもたちが楽しそうに釣りゲームをしていました！同時にクイズも行い、環境や海の生き物に詳しくなることもできました！

6/25 グリーンミーティング



6/26 第2回ロドゼミ

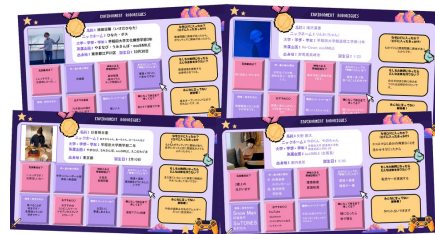


先輩方からマイクロプラスチックや環境学についてのお話を伺いました。

6/28 SWITCH TALKS



7/18 ロドド制作



環境ロドリゲスのメンバー同士が、お互いのことをさらに知ることができる素敵な読み物になりました！

8/5 しんじゅくこどもまつり



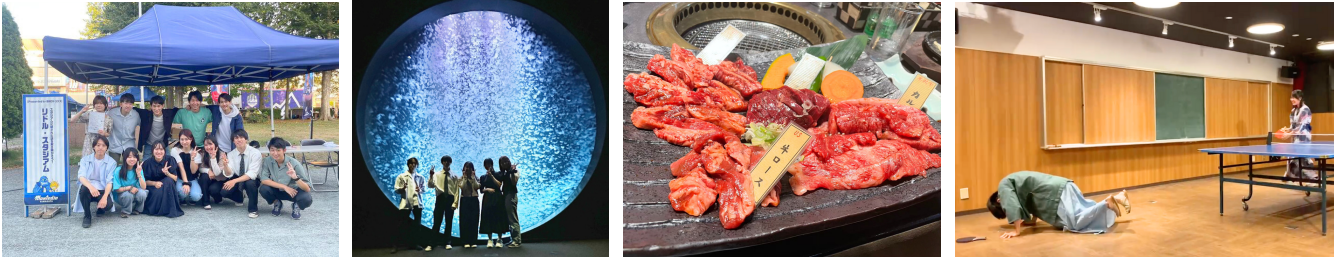
廃材を用いたアクセサリー工作体験のブースの出展を行いました。子供たちに楽しみながら環境問題について知ってもらえる良いきっかけになっていたら嬉しいです！

8/6・8/7 アースデイ東京ユース合宿





9/2~9/4 山形合宿



J2サッカークラブ『モンテディオ山形』の試合の日に、謎解きイベントを開催しました。また、イベントに即して、2泊3日の合宿を敢行し、山形県の食事や観光を大いに楽しみました。参加者の仲も深まり、イベント出展も大盛り上がりした良いイベントでした。

9/9 隠し芸マルシェ



クリアソン新宿でのブース出展で、Re-Coverが普段行なっている活動である、レジンアクセサリーの制作体験を行いました。



9/23 ICCサークルフェア



9月入学者向けの新歓イベントでした。何人かの留学生の方々も環境ロドリゲスに加入しました！

9/14 環境省国立公園利用推進室意見交換会



環境省の国立公園利用推進室の方々と、国立公園が抱える課題やオーバーツーリズムなどについて意見交換会を行いました。本当に貴重な機会をいただけて嬉しかったです！



9/18 地球感謝祭



地球感謝祭は早稲田三大祭の一つで、今年は4年ぶりの開催となりました。環境ロドリゲスは実験、カルタ、工作など異なるテーマで6つのブースを出展しました。準備は大変でしたが、当日はどのブースも大盛況で、とてもやりがいのある行事になりました。

9/24 SDGs夏祭り



SDGsをテーマとしたイベントに出展させていただきました。ロドリゲスでは廃材を利用した商品の販売と工作体験を行いました。さらに、他の学生団体の方々と交流を深めることができ、とても充実したイベントとなりました！

9/25 マルチステークホルダーダイアログ



株式会社ネオキャリアのサステナブルレポートを読んで、フィードバックを行いました。企業との本格的な連携の第一歩目となりました！

10/13 第38回青少年教育賞 受賞式



東京キワニスクラブが主催している、ボランティア活動において優秀な活動実績を残された学生団体を顕彰し、今後の活動を奨励する「第38回青少年教育賞」を、環境ロドリゲスが受賞しました。

10/22 稲門祭



稲門祭は早稲田大学のOBOGの方々が主に運営を行う伝統あるお祭りで、環境ロドリゲスは例年エコステーションでのゴミ分別指導を行っています。
※詳しくは、えこのわぐまの企画活動報告 (p.34) をご参照ください。



11/4・11/5 早稲田祭2023



早稲田祭2023では、初めて早稲田祭において飲食屋台を出店しました。規格外野菜を活用したポトフを販売するために、かなり早い時期から準備を行い、また、本番の後も動くことが多く、環境ロドリゲスの歴史の中でも類を見ないほど長期で大規模なプロジェクトとなりました。

協力的になってくださった大人の方々、規格外野菜をくださったり農家の課題などを聞かせてくださった群馬県の農家さん、そして当日にずっと動いてくれたメンバー、本当に多くの方々の力で成功を収めることができました。

大変なことも辛いことも多かったですけど、終わった後に振り返ると皆いい思い出だと語っています。新鮮さ、楽しさ、そしてやりがいに満ちた、思い出に残るイベントでした！



07 | 編集者一覧

主担当者

全体編集：矢野創大（26期）

全体指揮：滝沢凜香（26期）

各企画編集者



やまなび：福原陸斗（27期）



ecoSMILE：矢野創大（26期）



うみさんぼ：浦本律野（27期）



REC：渡邊観月（26期）



Re-Cover：湯浅晶（27期）



エコネクすと：鈴木愛枝（26期）



えこのわぐま：日昔明日香（26期）

Special Thanks

江村叶（26期）

株式会社ネオキャリア

